



COMPANY'S  
CHALLENGE

NO.81



## 事業と健康経営を両立し 持続可能な成長を目指していく

(株)グリーンクロス 代表取締役社長 久保 孝二氏

### 安全環境の構築を通じて 社会に貢献できる仕事を

工事現場に欠かせない案内看板、カラーコーン、バリケードなどの安全対策用品の販売・レンタルを中心に事業を展開する(株)グリーンクロス。中でも安全マーク入りのヘルメットを着用した人型安全単管バリケードは、福岡県産業デザイン賞で入賞を果たすなど、グリーンクロスの看板的存在となっています。その事業エリアは九州に留まらず、北は東北地方、南は沖縄まで全国に50以上の拠点を展開。グループ全体では800人ものスタッフを抱える業界最大手企業となりました。また工事現場の案内看板を製作してきた経験をベースに、飲食店や病院のグラ

フィックサインも手掛けています。

代表取締役社長の久保孝二さんは「安全環境の構築を通じて社会に貢献することが当社の理念です。昔は鉄の塊だった安全対策用品も樹脂に変わるなど日々進歩し、業界的にはデジタルトランスフォーメーションの波が押し寄せてくるという難しい時代。全国トップクラスの業界シェアという恵まれた環境ではありますが、常に最先端の情報や商材にアップロードしていきたいと思っています。それにスーパーゼネコンなどの現場ニーズを吸い上げ、どういった商品が求められているのかを見極めながら商品開発にも取り組んでいきたい」と意気込みます。

2020年に50周年を迎えたグリーンクロスでは、社員一丸となってさらな

る飛躍を目指すため、団結の意を込めてお揃いのユニフォームを製作。さらに新たな試みとしてアスリート社員の採用に着手し、陸上競技100mハードルの鎌田咲季選手と女子公式野球クラブチーム・九州ハニーズの鶴見葉奈選手が活動しています。

### 次なる飛躍のために 健康経営に挑戦

業界内外で存在感を見せるグリーンクロスですが、次なる経営戦略として2020年6月に「健康経営宣言」を制定し、社員が心身ともに健康に過ごせる環境づくりを推進しています。これは社員の健康管理を経営的な視点で捉え、企業の持続的な成長を目指す

#### 【プロフィール】

長崎県出身。住宅関連の訪問販売を経て1998年に(株)グリーンクロスに入社。久留米支社長や営業開発部長などを歴任し、2011年4月より2代目となる代表取締役社長を務める。



1 グリーンクロスではカラーコーンをはじめ、案内看板などあらゆる安全対策用品に対応している  
 3 「健康経営優良法人2022」の大規模法人部門で同じく認定を受けたのは2,299法人。従業員の健康促進に向けた取り組みが評価された。

2 創業50周年を記念して、揃いのポロシャツを製作。ユニフォームとして活用し、社員相互の絆を深めている  
 4 アスリート社員として活動する陸上競技100mハードルの鎌田咲季選手と女子公式野球クラブチーム・九州ハニーズの鶴見菜奈選手

経営戦略で、生産性の向上や離職率の低減などが期待できるとして大手企業を中心に広がりを見せています。

「企業を発展させていくためには、そこで働く従業員が心身ともに健康で豊かでなければなりません。売上という視点から見れば直接的な影響はないように見えますが、じつは非常に重要な要素」だという久保さん。具体的な取組みは、健康セミナーの開催、社内掲示板を活用したレシピ紹介、ウォーキングイベントの実施と多岐にわたります。また従来の健康診断に加え、精密・再検査のための受診を勧奨し生活習慣病等の未然防止を推進したり、今期からは就業時間の全面禁煙化を進めたり、多角的に健康づくりを後押ししています。

「もちろん仕事ではありませんから、最初は社員にも戸惑いがあったと思います。それでも折を見て、なぜ健康経営に取り組むのかを伝えていくことで、社員にもその考え方が浸透してきたように感じています。事実、業績も上向きになっており、少しずつ成果が上がっています」。

2022年3月には、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する認定制度において「健康経営優良法人2022

(大規模法人部門)」に認定されました。今後は健康経営優良法人の上位500法人のみに与えられる「健康経営優良法人ホワイト500」の取得にもチャレンジ。女性が活躍できる環境づくりや残業の廃止に取り組みながら、業務効率化や生産性の向上を目指していくそう。「仕事にはメリハリが必要。そのために環境も整えていきたい」と話すように、社内にはエクササイズマシンが並び、女子卓球リーグ・九州アスティーダのメインスポンサーになったことを機に卓球台を設置するなど、従業員の運動習慣を支援しながらメリハリをつけて仕事ができるよう、さまざまな工夫を凝らしています。

### コロナ禍だからこそ 設備投資でさらなる成長を

こうして社内改革による業績アップを狙うグリーンクロスですが、コロナ禍については「仕事自体がやりにくくなりましたが、不況に強い業界なのでそれほど影響は受けませんでした。三角コーンなど一部イベント関連での取り扱いが落ち込みはしましたが、その分、現場でのマスクや体温計、検査キットなど、その時その時に応じた

ニーズが生まれるので、それに対応することができたのは大きいのではないのでしょうか」と振り返ります。

今後は業界ナンバーワンを目指し、看板・サイン領域においては、看板クリニックとして老朽化した看板の点検、リニューアル業務を強化。安全対策用品領域では、山陰地区と四国地区に物流センターを設置予定と攻勢を続けます。「コロナ禍を通じて感じたのは、自分たちがどういう会社であるかをしっかりと考えることの大切さ。いま伸びている会社を見ると、どこも積極的に投資に取り組んでいます。コロナ禍だからといって停滞するのではなく、積極的な投資も必要」と久保さんは未来を見据えます。

取材日：5月13日



(株)グリーンクロス

〒810-0034 福岡市中央区笹丘1-17-29

TEL 0120-418-963

<https://www.green-cross.co.jp/>

Instagram